

じぶんにできることをする

閉会式典部

総合ビジネス科3年 入里 真優

私は全国産業教育フェア愛知大会「さんフェア愛知2013」に参加することができてよかったと思っています。最初、自分がこの大会の実行委員となるとは思ってもみなかったのですが、この大会が終わった今では実行委員になることができ、貴重な体験ができて本当によかったと思っています。

私が高校2年生の時に全国産業教育フェアのことを知り、学校から実行委員を選ぶ際に、担任の先生からやってみないかと声を掛けていただきました。声をかけられたときは、生徒会の活動をしていたので、正直不安な気持ちがありました。ですが、もう一人の実行委員となる友達は中学からの仲だったので、実行委員になることを決めました。

大会が終わった今、振り返ってみると、活動をした1年半の時間の流れが本当に早く感じました。最初の実行委員会で、初めて他校の実行委員の方と顔合わせをした時、私が所属している閉会式典部は、他の部会より進行がうまくいかず、話を進めることもできずなかなか打ち解けることができなかつたことは、昨日のように鮮明に覚えています。その後、何回か実行委員会を重ねるうちに、自然と仲良くなっていきました。私達が担当するメモリアルアトラクションでは、劇とダンスに取り組むこととなり、たくさんメンバーと話し合いをしました。案があまり出ず、困ったこともたくさんありました。それに加え、去年の岡山大会の視察と本校の修学旅行の日程が重なってしまい、せっかくの岡山大会を視察する機会を逃してしまい、全国産業教育フェアがどういったイベントなのか、あまり理解できないまま話し合いに臨むことになりました。そんな中でも、分かることから率先してみんなと協力しているんなことを決めていきました。大会に近づくにつれて、教育委員会の方や引率の先生方にたくさんのアドバイスをいただきました。みんなの雰囲気も日に日に盛り上がり、大会を成功させようと頑張るようになりました。

そんな中、大会の2週間前、私は学校の体育の授業で、足首の靭帯を損傷してしまい、普通に歩けない状態になってしまいました。全治3週間とのことで、私はメモリアルアトラクションの中のダンスと棒の手を演じることができなくなってしまいました。しかし、この段階ではすでにダンスや棒の手の隊形なども決まっており、後は練習あるのみという状態だったので、みんなに迷惑をかけてしまうと同時に、できなくなってしまったことをとても悔しく思いました。そんな時、実行委員の仲間たちは嫌そうな顔もせず、私のことをとても心配してくれました。閉会式典部の生徒だけでなく、他の部会の仲間や引率の先生方にも声をかけてもらいました。迷惑をかけているのに、逆に気を配ってくれることで私はとても救われた気がします。そして、怪我をしていても自分にできる最大限のことをするようにしました。ダンスや棒の手ができないなら、他のところで頑張らなければと思いました。幸いにも、劇での私の役割はナレーションだったので、劇のシナリオを修正したり、BGMを探したり、他のメンバー以上に意見を出そうと、積極的に活動するよう心がけました。

そうして迎えた本番では、たくさん練習をした成果が表れ、今までで一番の出来だったと思います。みんなで頑張ったからこそその成功だと思っています。私はみんなのパフォーマンスを舞台袖で見て、やっぱりみんなと舞台に立ちたかったなと感じました。そう思うのは、練習ではいろんなところが揃わなかったのに、みんなが一体となったパフォーマンスがとても輝いて見えたからだだと思います。もちろんその時はみんなと一緒に踊っている気持ちで見えていました。

私はこの大会に参加できたことをとても嬉しく思います。不安ながらも実行委員となって、たくさんの方と出会うことができ、たくさんの貴重な経験をすることができ、とてもよかったと思っています。私が実行委員として頑張れたのは、閉会式典部の仲間と支えてくださった先生方、応援してくれる学校の友人がいたからです。本当に多くの方に支えてもらったことに感謝しています。

来年の産業教育フェアも成功するよう、宮城県の生徒実行委員の皆さんにも頑張ってもらいたいです。そして、もっとこの全国産業教育フェアという素晴らしい大会をたくさんの方に知っていただきたいです。